

2017年2月

第77号

ぱれっと



(株)北日本ベストサポート

TEL 018-883-1888

米国第45代大統領にドナルド・トランプ氏就任

1月20日米国でドナルド・トランプ氏が第45代大統領に就任した。

トランプ氏は就任演説の中で「米国第一主義」を掲げ外交と経済の両面で国益を最優先する立場を鮮明にした。

経済的には、政治の無策により貿易相手国に富を奪われ雇用を奪われてきた、「米国は他の国を豊かにしたが、我々の富や力、自信は地平線の彼方へ消え去った」とし、同盟関係や外交面では「これまで同盟諸国の領土を守り、他国の軍を助成する一方で、我々の軍の消耗を容認してきた」との認識を示した。

そして、「米国製品を買い、米国人を雇う。我々が従うのは、この2つの単純なルールだ」とし、「保護こそがすばらしい繁栄と強さにつながる」と歴代政権が進めてきた貿易自由化の動きを非難し、保護主義的な姿勢を打ち出した。

トランプ大統領は就任初日に、日米など12カ国が署名した環太平洋経済連携協定(TPP)からの離脱とカナダ、メキシコとの間で結ぶ発効から23年になる「北米自由貿易協定」(NAFTA)の見直しを表明するとともに、前政権で導入した「医療保険制度」(オバマケア)の見直しに向け大統領令に署名した。

国の力には軍事パワー、経済パワー、価値観や理念が持つソフトパワーの三要素があると言われているが、今回の演説では「自由」「法の支配」「民主主義」「人権」と言った価値や理念についての言及はなかった。

オバマ政権の下では「世界の警察はやらない」と公言しつつもクリミア紛争や北朝鮮への制裁などで、国際法に基づいて秩序を守らせる「法の番人」の役目を果たそうと努力してきた。しかし、トランプ大統領の演説からは「世界の平和や自由」をどのように支えていこうとしているのかその真意を読み取ることができなかった。

今回の大統領就任式典は就任演説内容も異質なら、異例づくめの大統領の誕生だった。トランプ氏は政治家・官僚の経験がないビジネスマンとしての経歴。支持率40%と低率。民主議員が「祝意示せぬ」として約70人欠席。人出もオバマ氏就任時約180万人、トランプ氏約90万人。式場で(世界各地でも)トランプ大統領反対デモ等々。

トランプ大統領はTPP離脱の他、我が国に対して「不平等貿易」・「同盟軍事費負担」などについて言及している。

外交面でイスラム国(ISなどイスラム過激派組織)の撲滅とロシアとの関係修復、台湾接近と中国との貿易不均衡や為替操作問題、メキシコ国境に壁を築き不法移民を排除すること、などが取りざたされているが、さらに、北朝鮮の核・ミサイル開発、中国の海洋進出などにどう向き合おうとしているのか不透明な点が多い。しばらくはトランプ氏の一举手一投足に目が離せない神経戦が続く。



菜根譚

《中国古典に学ぶ》

誠実・円満に人と接する

まともな人間になろうと思えば、誠実な心を持っていなければならない。
そうでなければ、何をやっても信用されない。

この世の中でうまく生きていくためには、相手の立場や気持ちに心を配り、
円満な人間関係を築いていくよう心がけなければならない。

そうでなければ、他人とささいなことでぶつかってしまい、思うように物事
が進まなくなる。

【前集 149】

人に寛大にし、自分に厳しくする

人の過失や欠点を責めるときには、悪いところだけをとがめるのではなく、
同時によいところも評価してやることが大切だ。

そうすれば、叱られたほうも嫌な気持ちにならなくてすむ。

これに対し、自分の過失や欠点を反省するときには、よいところの中にも悪
いところがないか、あえて探し出すくらいの厳しい態度が必要だ。

そうすれば、人格にも一段と磨きがかかるだろう。

【前集 218】

高い目標を持つ

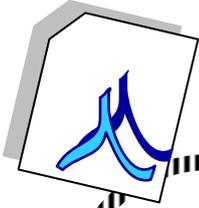
自分を向上させたいと思えば、人よりも少し高い目標を設定して日々精進す
ることが大切だ。

そうしないと、お互いが同じレベルにとどまってしまい切磋琢磨できない。
これでは、人間的な成長は難しい。

また、この世の中で生きていくためには、相手に一步譲り、少し遅れをとる
くらいがちょうどいい。ただ突き進むばかりでは、炎に飛び込む蛾や垣根に角
をとられた羊のように、身動きがとれず窮地に陥ってしまうだろう。

これでは、とうてい安心して生活などできない。

【前集 43】



渋沢 栄一 (幕末の日本武士、官僚、実業家)

天保11年2月13日 (1840年)	武蔵国(現埼玉県深谷市血洗島)に父・渋沢市郎右衛門元助、母・エイの長男として生まれる。渋沢家は藍玉の製造販売と養蚕を兼営し米、麦、野菜生産も手掛ける豪農だった。
1847年	従兄の尾高惇忠の許で「四書五経」や「日本外史」を学び、剣術は大川平兵衛より神道無念流を学んだ。
文久元年(1861年)	江戸に出て海保漁村の門下生となる。また、北辰一刀流のお玉が池の千葉道場入門。
文久3年(1863年)	尊皇攘夷思想に目覚め倒幕計画に参加しようとするが、惇忠の弟の説得で断念。
文久3年8月	一橋慶喜に仕える。主君慶喜が将軍となったのに伴い、幕臣となりパリ万国博覧会に将軍の名代として出席した徳川昭武の随員としてフランスへ渡航。ヨーロッパ各国を訪問、各地の先進的な産業、軍備、社会を見て感銘を受ける。
慶応4年5月(1868年)	大政奉還で新政府からの命により同年11月3日帰国。
明治2年10月(1869年)	大蔵省に入省。
明治6年(1873年)	大久保利通・大隈重信と予算編成をめぐる対立、井上馨とともに退官。退官後第一国立銀行、東京瓦斯、東京海上火災保険、王子製紙など500以上の多種多様な企業設立に関わった。「私利を追わず公益を図る」を旨とした。
大正5年(1916年)	「論語と算盤」を著し、「道徳経済合一説」を打ち出した。
昭和3年11月10日	旭日桐花大綬章を受ける。
昭和6年11月11日	死去。享年91歳。

オススメの BOOK



『元検事が明かす「口の割らせ方」』

作者 大澤 孝征 小学館新書

元検事といえば厳しい印象を受けるが、本人は俳句、しの笛、歌舞伎鑑賞などを好む。現在は弁護士となりテレビ番組でも活躍する。

本書は検事時代、犯人から真実を語ってもらうために、相手とどう向き合うか。相手の心をどう開いてゆくかの苦心話。お互いの人間的触れ合いの中で初めて解決の方向へ動き始める。

くらしと保険のおはなし



一般に自治体が運営していたり、銀行などが金融商品として扱っています

注目のリバース（逆）・モーゲージ（借当）

リバース・モーゲージとは、自宅に住み続けながら、その自宅を担保に生活資金の融資を受け、契約期間が終了した時（契約者の死亡など）に担保不動産を処分することなどによって、融資金を元利一括返済するというものです。

この契約期間中には元利金の返済は行われなため、借入金が増えていくことになり、そういう意味でリバース・モーゲージは逆住宅ローンと呼ばれています。

アメリカでは現金収入の少ない高齢の持ち家層の間で利用が広がっていますが、日本でも公的年金を補完する役割に期待が高まっています。

リバース・モーゲージの始め方

- 1、不動産の評価額を調べる
- 2、家を担保に審査・契約
- 3、評価額から算出した額を借りられる
- 4、現金返済または契約者が死亡後に家を引き取ってもらい返済

自分の所有する不動産の評価額を調べ、その評価額を基準に一定額以下の金額ならいつでも借りることができます。

基本的にはリバース・モーゲージの限度額は家の評価額の50～70%とされています。

例えば、1000万円と評価された不動産を所有していれば、それを担保に500～700万円の枠が用意され、その金額内であればいつでも借りられます。この制度を利用することで金銭的な不安を抱えたまま老後を過ごさなくても済むので、老後の不安を大幅に軽減できます。

リバース・モーゲージの最大のメリットは年配者が住み慣れた家を抵当に入れつつも、そこを老後も離れることなく住み続けられること。そして、一定の生活費を受け取れることです。また、通常の住宅ローンと違い、高齢でも借りられるということです。

問題点としては、「債務者の長生き」、「金利上昇」、「不動産価格下落」などのリスクがあります。

場合によってはリバース・モーゲージを利用するよりも不動産を売却した方が良い場合もありますので注意が必要です。

自分のことは自分で面倒を見る風潮が強まる中、自宅売却前提の制度は今後注目されていくかもしれません。



蔵王のアイスモンスター

【編集後記】

トランプ大統領が就任した日、日本では大相撲で大関稀勢の里が千秋楽で横綱白鵬を破り14勝1敗で初優勝、念願の横綱昇進を確実なものとした。

稀勢の里は、大関になるまでは史上2番目となるスピード出世を果たしたが、多くのファンの期待に応えることができず準優勝12回大関在位31場所でやっと遅咲きの横綱となる。

日本人横綱の誕生は、3代目若乃花以来実に19年振りとなる。

相撲界の発展のためにも我々ファンのためにも名横綱と言われるような一層の活躍を期待したい。